

マイクロフィルム版

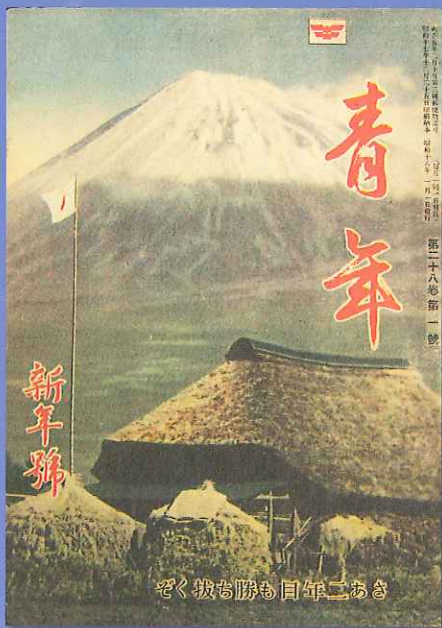
『帝國青年』『青年』

全48リール+別冊1

帝國青年 青年



『帝國青年』創刊号・表紙



日本の近代社会教育史の
歩みを体現する、
50,000ページに及ぶ
青年団の中央機関誌を、
マイクロフィルム版にて刊行！

資料提供 財団法人 日本青年館

収録内容

● 『帝國青年』一九一六年(大正五年)月〜一九三二年(大正二十一年)二月

● 『青年』一九三三年(大正二十二年)二月〜一九四五年(昭和二十年)二月

● 別冊 解説(多仁照廣)・総目次・執筆者索引

● 推薦 上野景三・小里貞利・菅原亮芳・渡邊洋子

● 配本 全2回(第1回 二〇〇六年七月・第2回 二〇〇七年七月)

● 定価 本体一、〇〇〇、〇〇〇円十税

不二出版



山本瀧之助『編(明治44年)大正8年刊』
良民 全9巻・別冊1

雑誌「良民」は、編集を山本瀧之助、挿絵を竹久夢二、そして出版元を河本亀之助の三人によって、明治四四年二月に創刊された。「地方青年」であった三人は、「大正デモクラシー」の生成期の時代相を捉え、今日においてもなお、近代日本の青年・壮年層の形成過程を知る貴重な資料を提供している。「山本瀧之助日記(全四巻)」の編者の解説を付し、広島県沼隈郡の山本家に残る唯一の原本をもとに、本書は復刻された。教育史、特に近代社会教育史の資料である。

- 別冊Ⅱ解説(多仁照廣)・総目次
- A5判・上製・総4、356頁
- 本体価格150,000円十税
- 98年10月刊(復刻版)
- 推薦Ⅱ大濱徹也・小川利夫・金原左門

〔昭和10年〕昭和16年刊〕
壮年團 全7巻・別冊1

一九三〇年代、昭和恐慌や経済更正運動のなかで壮年層の役割が注目されると、壮年団の運動も本格的になり、全国各地に統々と壮年団が結成された。内務官僚の指導下に、反社会主義、反・非政党、郷土愛を掲げた壮年団運動は、当時の国民総合路線の「翼」を成した。機関誌「壮年團」は、各地壮年団の動向、指導者田澤義鋪、丸山鶴吉、後藤隆之助らの論議、昭和研究会に關係した尾崎秀実、笠信太郎、蠟山政道らの評論などを掲載した。

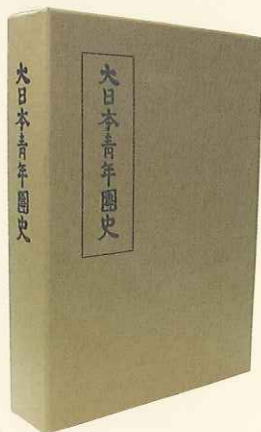
- 別冊Ⅱ解説(北河賢三)・総目次・索引
- A5判・上製・函入・総5、152頁
- 本体価格98,000円十税
- 95年11月刊(復刻版)
- 推薦Ⅱ伊藤 隆・今井清一・由井正臣・友野勝郎



〔財〕日本青年館Ⅱ発行(取扱図書)
大日本青年團史

戦前、日本の社会教育の中心は青年団であり、政策的にも重視されてきた。その意味で日本の社会教育を語るべき、青年団の歴史はきけて通れない。本書は、昭和十七年に日本の青年団の歴史を初めて体系づけた唯一のものである。内容は、江戸時代初期の若連中から説きおこし、大正期の大日本連合青年団の統一、大日本青年団そして昭和十六年の大日本青少年団へ再編成する前までを記録している。

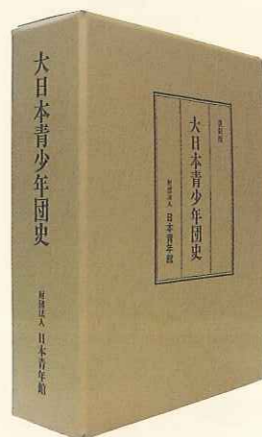
- A5判・上製・函入・総776頁
- 本体価格14,000円十税
- 89年6月刊(復刻版)



〔財〕日本青年館Ⅱ発行(昭和45年刊)
大日本青少年団史

戦前の青少年団の活動記録は、昭和十六年までを「大日本青年團史」に詳述し、昭和十七年から二〇年までは「大日本青少年団史」にまとめられた。戦時下の昭和十六年一月、大日本青年団・大日本連合女子青年団・大日本少年団連盟(ボーイスカウト)・帝國少年団協会の四団体が統合され「大日本青少年団」が結成された。その数、千五百万の青少年が組織され、戦時の後方援護、食糧増産、民間防衛などに従事、敗戦までの国家総力戦体制にまきこまれていく過程を記録している。

- A5判・上製・函入・総1,072頁
- 本体価格18,000円十税
- 96年4月刊(復刻版)



〔財〕日本青年館Ⅱ発行(昭和6年刊) 岡田洋司Ⅱ解説
山本瀧之助全集

近代日本の青年・壮年層の社会教育の上で、重要な役割を果たした山本瀧之助(八七三〜一九三〇)の著作・論文のエッセンスの集大成。近代日本の農村青年の自己形成史を知る上で貴重な書である。

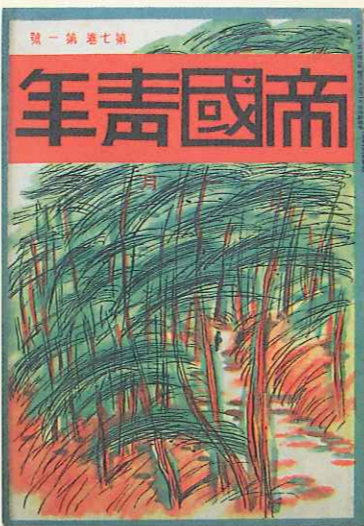
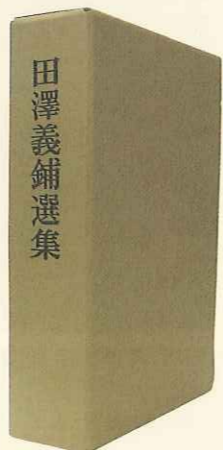
- A5判・上製・函入・1,220頁
- 本体価格20,000円十税
- 85年12月刊(復刻版)



〔財〕日本青年館Ⅱ発行(取扱図書)
田澤義鋪選集

青年団の育ての親である田澤義鋪の著作の中から、「政治教育講話」「青年団の使命」など主要なものを収録し、青年団の発達、政治教育の普及に腐心した田澤の精神を凝縮した貴重な文献。一九六九年刊。

- A5判・上製・函入・1,140頁
- 本体価格5,000円十税
- 89年5月再版



『帝國青年』

●概要

●体裁
マイクロフィルム版 全48リール十別冊1
〔35ミリポジティブ・ロールフィルム〕
〔原本は菊判・並製・総約50,000頁〕

●配本
第1回配本Ⅱ1〜24リール(2006年7月刊)
本体価格500,000円十税

第2回配本Ⅱ25〜48リール十別冊(2007年1月刊)
本体価格500,000円十税

●解説
ISBN4-8350-5722-8

●別冊
多仁照廣(教習短期大学教授)

●別冊
解説・総目次・執筆者索引

(別冊のみ分売可Ⅱ本体価格5,000円十税)

ISBN4-8350-5723-6

●推薦

上野景三(佐賀大学文化教育学部教授)

小里貞利(財団法人日本青年館理事長・前衆議院議員)

菅原亮芳(高崎商科大学流通情報学部教授)

渡邊洋子(京都大学大学院教育学研究科助教)

●崩定価

本体1,000,000円十税



関連図書

中央報徳会Ⅱ編纂(明治39年)昭和21年刊)
斯民 全38巻・別冊1

本誌は明治三九(一九〇六)年四月創刊、昭和二年二月まで、全四〇編四七一号刊行された。創刊当初、内務省は地方自治の基本方針として、二宮尊徳の「報徳」の理念を採用し、「道徳と経済の調和」を基本標語とした。当時の内務、農商務、文部の各省の地方行政、地方自治と密接な関係を持つ官僚を主導力とし、地方自治に対して常に多大な影響を与えており、狭義の報徳主義研究の資料にとどまらず、地方自治・農政史・教育史を含む日本近現代史研究の宝庫でもある。

- 別冊Ⅱ解説(金澤史男)・解題(酒田正敏)・目次総覧
- A4判・上製・総14、200頁
- 本体価格768,000円十税
- 00年10月〜02年12月配本完結(復刻版)
- 推薦Ⅱ海野福寿・宮崎隆次・宮地正人・和田 守

斯民 第一編 第一號

報徳會

●表示価格はすべて税別。

不二出版

〒113-0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-3812-4433
ファクシミリ03-3812-4464
振替0016002940884